新・ギャンブル新聞

杉作Ｊ太郎の レッスルマニア

（仮題） 第１回

▶初心に還って…
当新聞創刊号のイラスト
by杉作Ｊ太郎主筆

いよいよ次号から新展開！ ギャンブル新聞がリメイクされる！

１

早いもので、新時代の男の生き方、死に方を提唱してきたギャンブル新聞も今回で目出たく17回目を迎えた。つまり、人間で言えば17才（ということにしとくか）。つまり、今時の女の子なら、もちろんバージン喪失はおろか、セカンドバージン喪失、いや、さらには40、50のヒヒジジイをつかまえて、

「ねえ、マンション買って」

などとほざいてる年齢に達したわけだ。ちなみに、この際のマンションというのは、饅頭と小便のことである。

つまり、機は熟したのである。

ということはどういうことかというと、いよいよこのギャンブル新聞も、新しいラウンドへ突入するわけである。

そこで、次回からは心機一転、ニューギャンブル新聞として、世紀末の世界でサムシングを模索する男たちに、熱いエキスをお届けすることにした。

２

ここで次回からの新方針を紹介しておこう。まず、今までギャンブル新聞はあまりにもギャンブルに固執しすぎた観がある。いや、ギャンブル新聞というタイトルなのだからギャンブルのことを記す、これは当然である。だが、それでは人形、ファミコン、プラモ、ゲームなどいわゆる一般玩具だけを売っているオモチャ屋ではないか。

ギャンブル新聞が目指していたものはそうではなかったはずだ。目指したもの、それは、パンティもあればガラナチョコも売っている、大人のオモチャ屋だったはずではないか！

３

そういえば、先日、下川辰平さんにインタビューする機会があった。

そう『太陽にほえろ』のゴリラみたいだからゴリさんかと思えば、いやにあっさりした『長（チョー）さん』というコードネームで呼ばれていたヤングに人気の俳優である。

この下川アニキ、役に入る前にまず訪れるのが、動物園という話であった。人間を頭の中で組み立てて演ずるのではなく、様々な動物を見て、そこからのプランを立てるというのであった。

その話を聞いたときに私は不意にゴリラに頭をかじられたような気がした。

私にとって、ギャンブルというのは、そしてギャンブル新聞というのは、下川アニキにとっての動物だったはずなのである！

４

というわけで、次回からはギャンブル以外の話も飛び出ることにより、グッと内容にも幅が出て、より面白く、そして読みやすくなることとウケアイのニューギャンブル新聞。今回はとりあえず『レッスルマニア』と題してお届けしましたが、いかがだったでしょうか（つたって、なんの内容もなかったりして……）。まあ次回までには正式タイトルも決定するはずですので、よろしくタノムサク。なお、余談になるが、下川アニキの『長さん』というのは、いかりや長介のことを指していたのではないかと、ふと今頭をよぎった。

連載コラム
蛭子能収の
ニュー シゴキ道場⑯

ある日、突然知らん人から電話がかかってきたんですよ。

「絶対に儲かる、だから金を買え！」

いうて。なんぼぐらい儲かるんですか？　いうて聞いたら、

「すぐに倍ぐらいにはなる」

いうんですよ。いくらなんでもうまい話じゃと思うじゃないですか。で、断ったんですよね。そしたら今度はその人がいきなりうちにやってきたんですよ。いくら言われてもそんなお金、ないですよ、いうていうたんですけどね、

「銀行に入れとくより絶対に得です」

いうんで、結局１００万円、買うてしもたんですよ。そしたらね、電話があってですね、

「蛭子さん、あれ、すいません、値下がりしました。もうちょっと、買いたさなきゃいけませんねえ」

いうんですよ。結局、それ以上買わなんだですけどね、60万か80万の損になってしもたんですよねえ。今思ったら、もったいないとしましたよお。

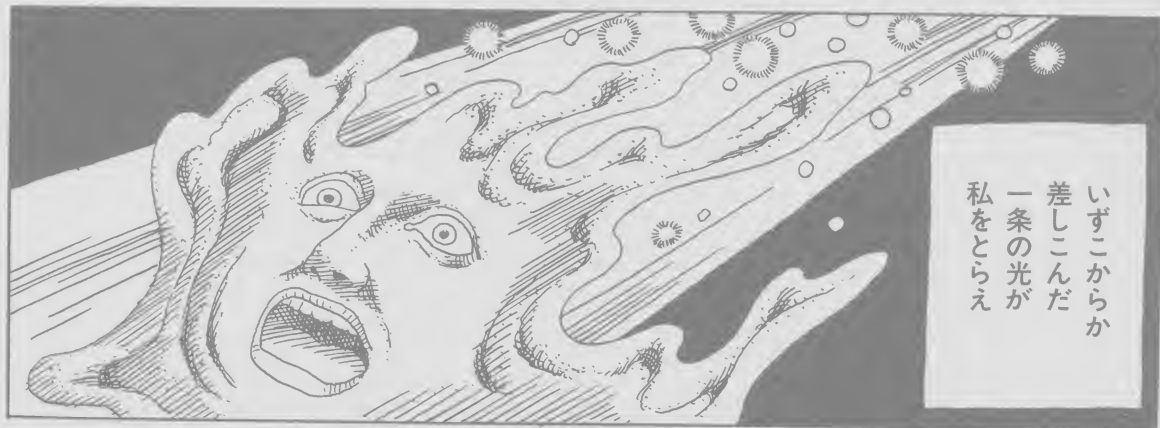
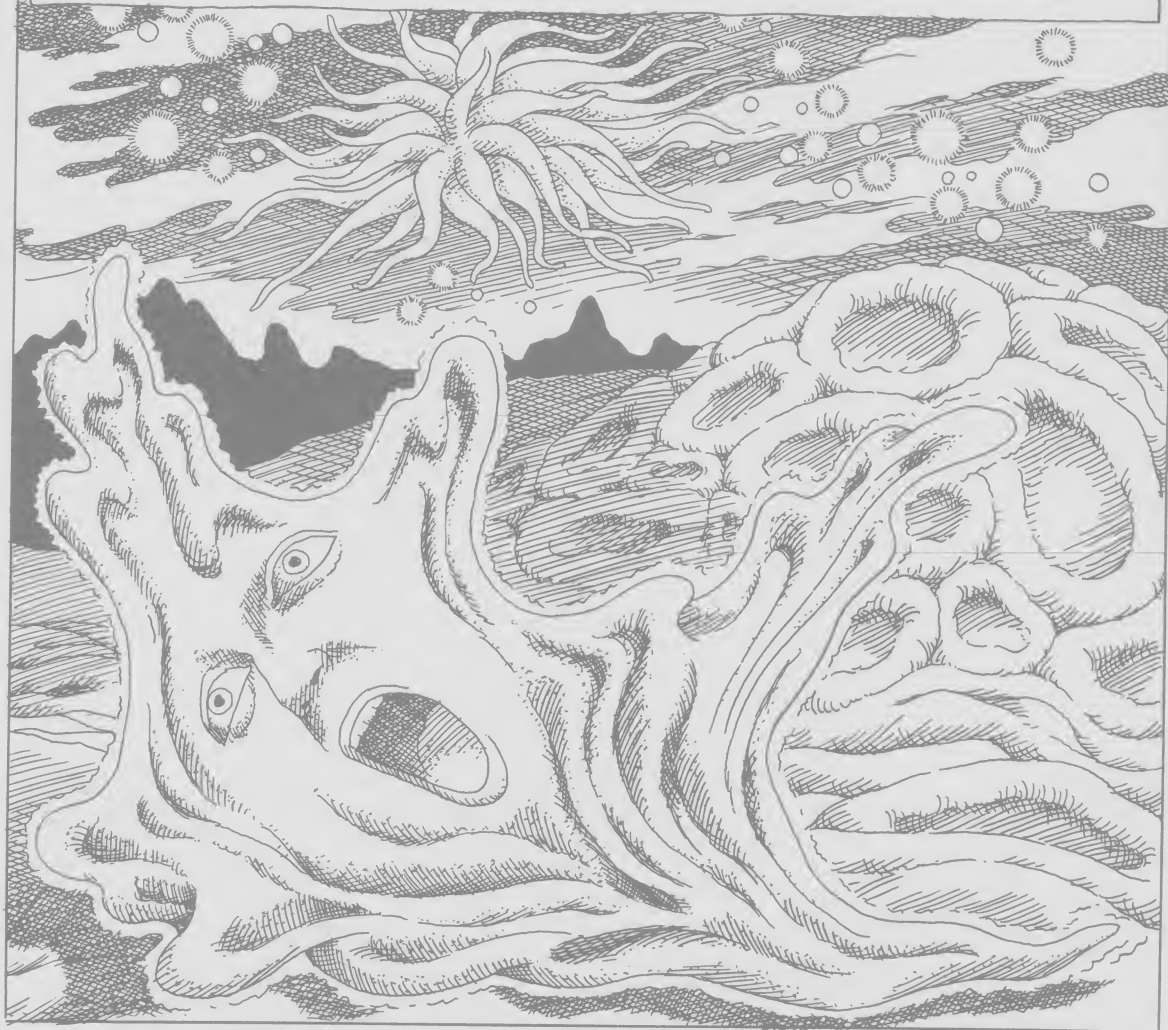
え？　最初から買わんかったらよかった？　そうじゃないですよ、値下がったあの時、無理してでも買いたしといたら今頃は倍になっとんじゃないかなあ、って思うんですよねえ。（談）

＊

ネッシーやヒバゴンを目撃した人はいても、ネッシーの頭上に乗った人やヒバゴンとダンスした人はそう多くないはずだ。さすがに現代のマイトガイ蛭子さん！　やってくれました！　そんな蛭子さんにはパックリくんをあげよう。（Ｊ）

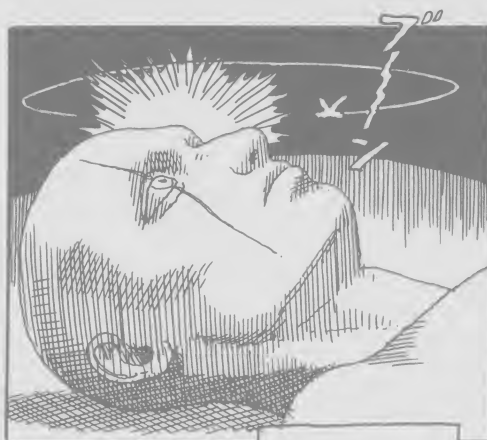
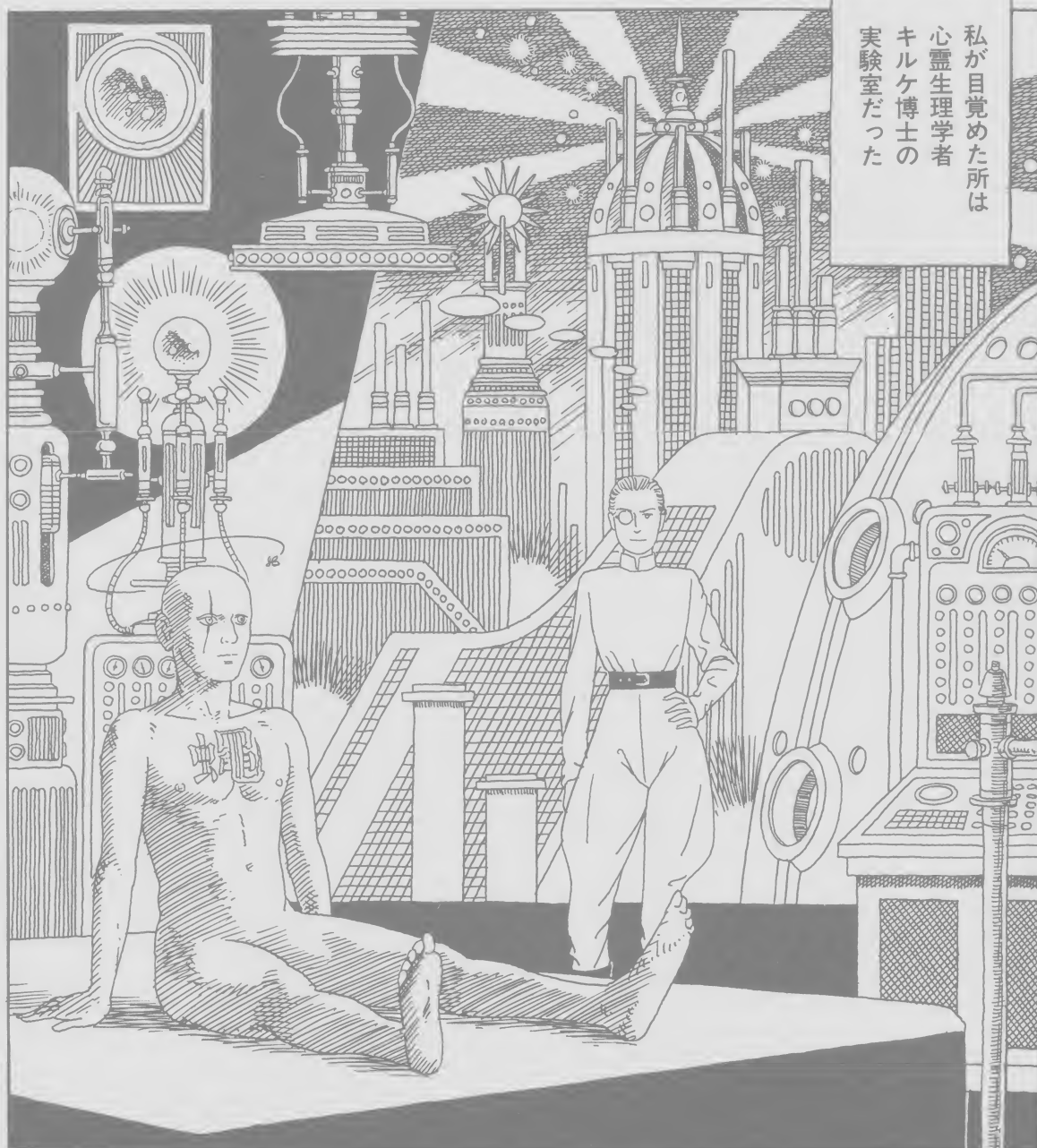
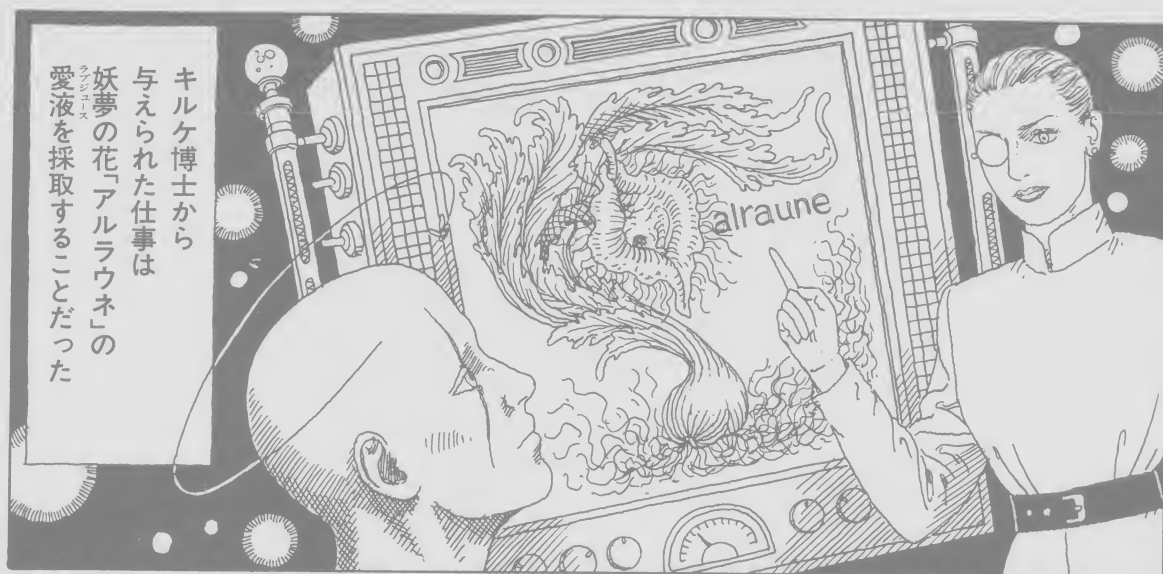
ビデオ『パチンコ電撃作戦！』は東芝ＥＭＩより９月発売！
（photo by シラトリ博士）

㊟本編は「コミック・ダッシュ」90年3月号（辰巳出版）に掲載された作品「ネクロポリス」を基に、新たな構想で描き改めたものです。——作者

曲折した時空の彼方に浮かぶ闇黒惑星「ヒィアーデス」
…永劫の昔、蛇神クトゥルフに見捨てられたこの星の
混沌とした意識の薄明のどん底で
無定形の姿を持つ私は
孤絶のエクスタシーに痺れ、のたうち回っていた

一瞬の後 私は
遥かなる星
「地球」の

ひとつの肉体に
吸いこまれて
いった

初めて聞く心臓の鼓動
血液の流れ…

ヒフや内臓の感覚
異様なる肉体の意識…

私が目覚めた所は
心霊生理学者
キルケ博士の
実験室だった

キルケ博士から
与えられた仕事は
妖夢の花「アルラウネ」の
愛液（ラブジュース）を採取することだった
alraune

「ネクロポリス」——
この都市(まち)は
魂の墓場

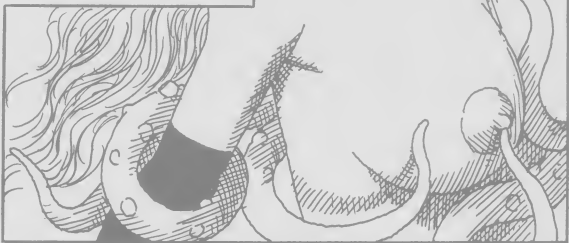
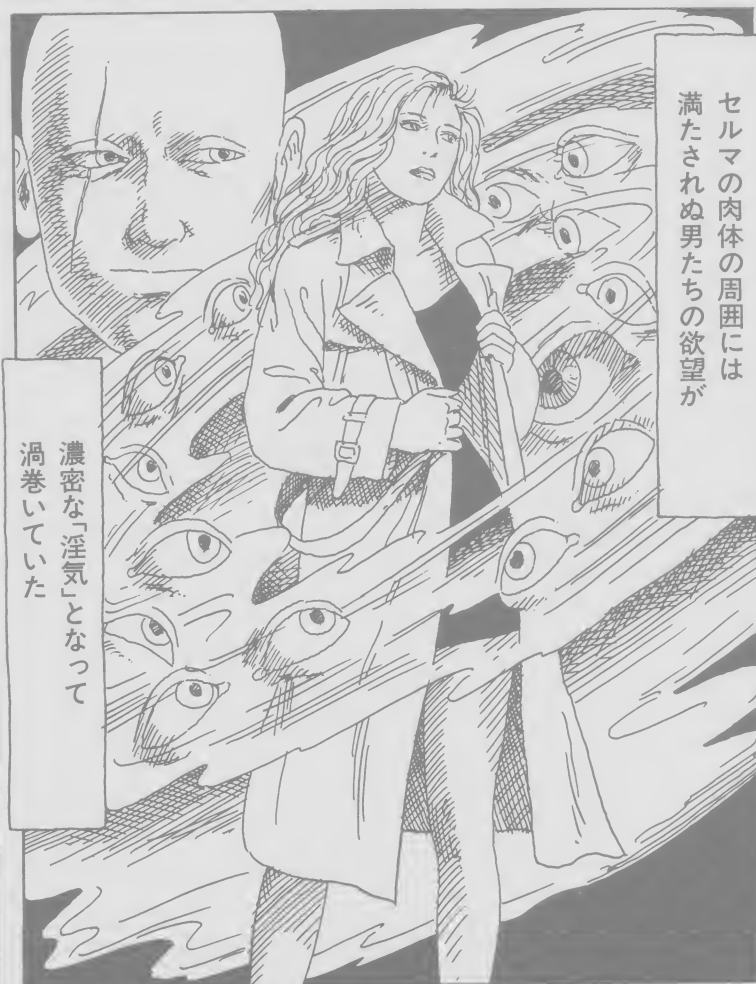
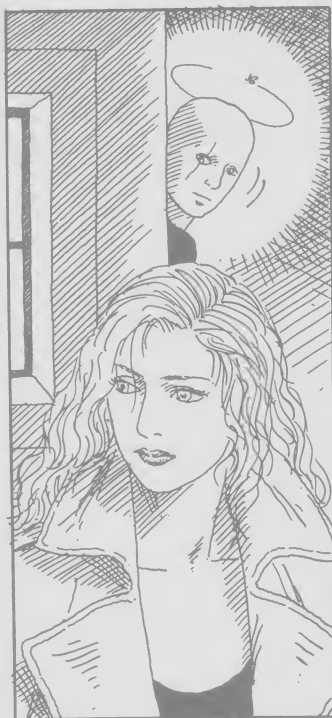
邪道の科学と
歪んだ欲望が
支配する
狂夢の巷…

SELMA

踊り子セルマと
人面蛸の交合ショウ

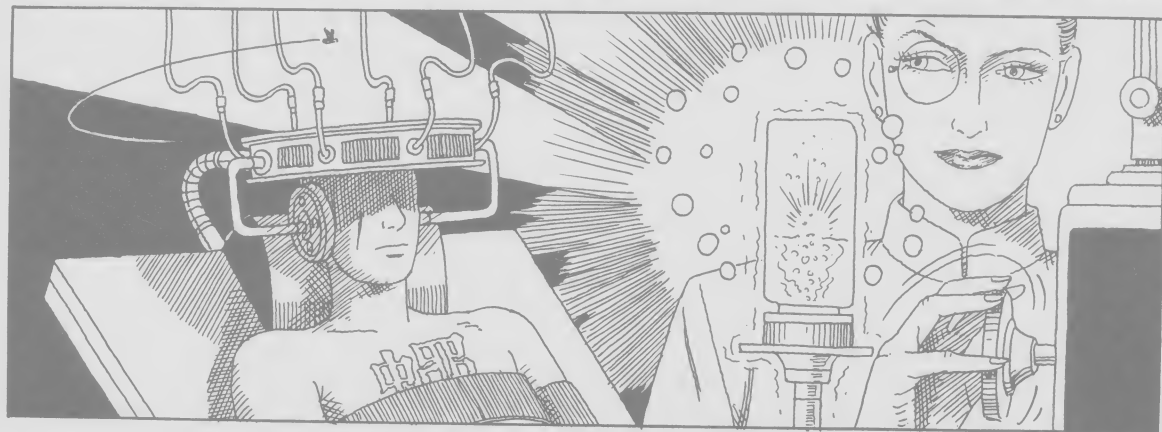
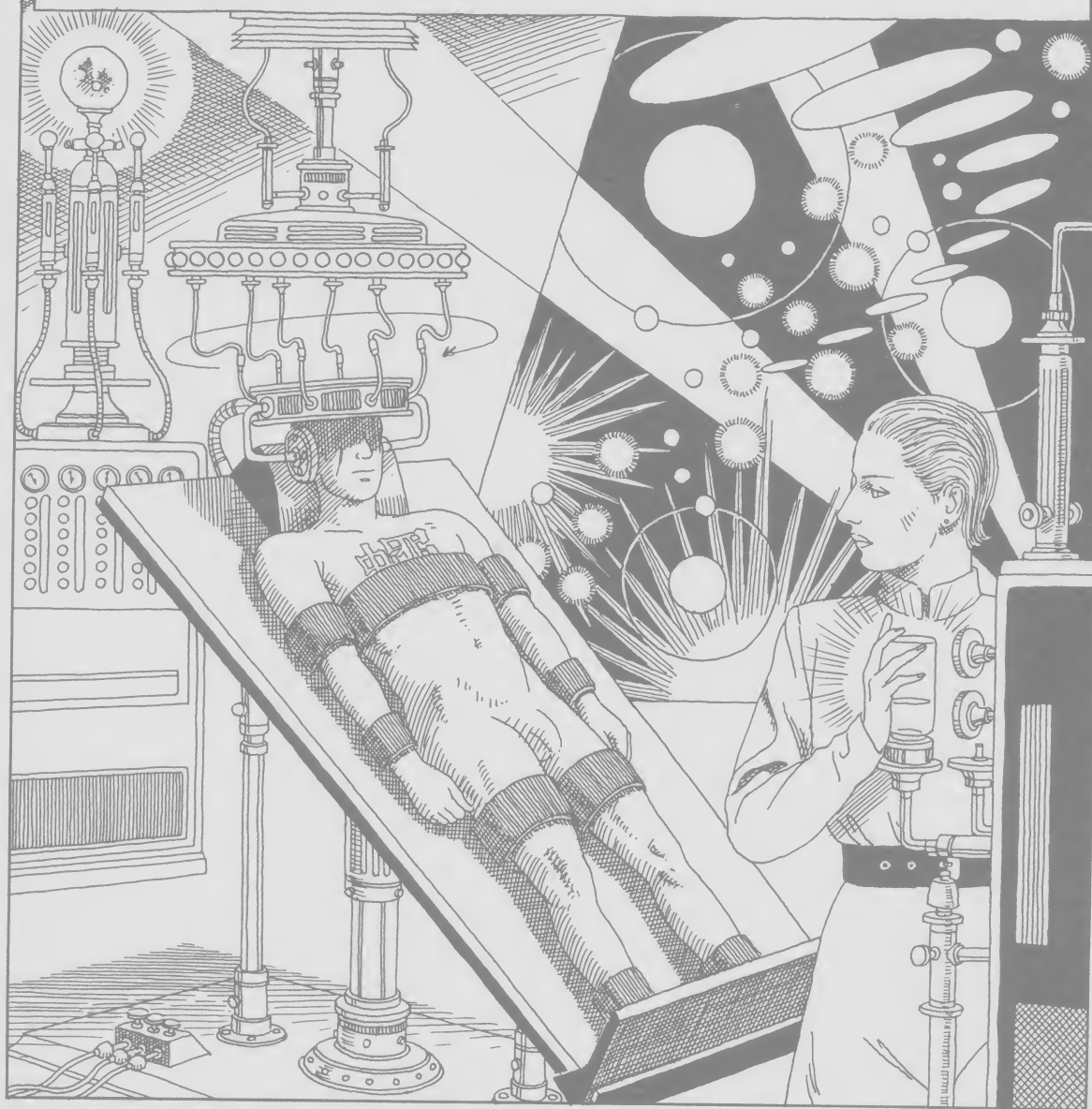
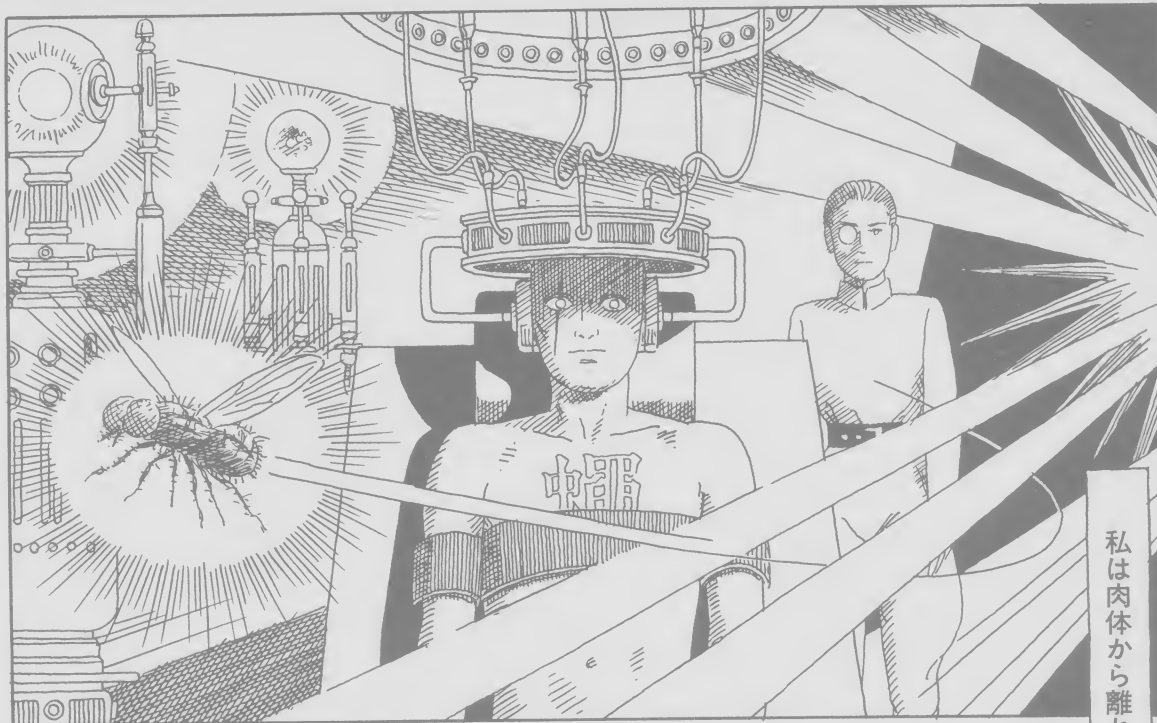
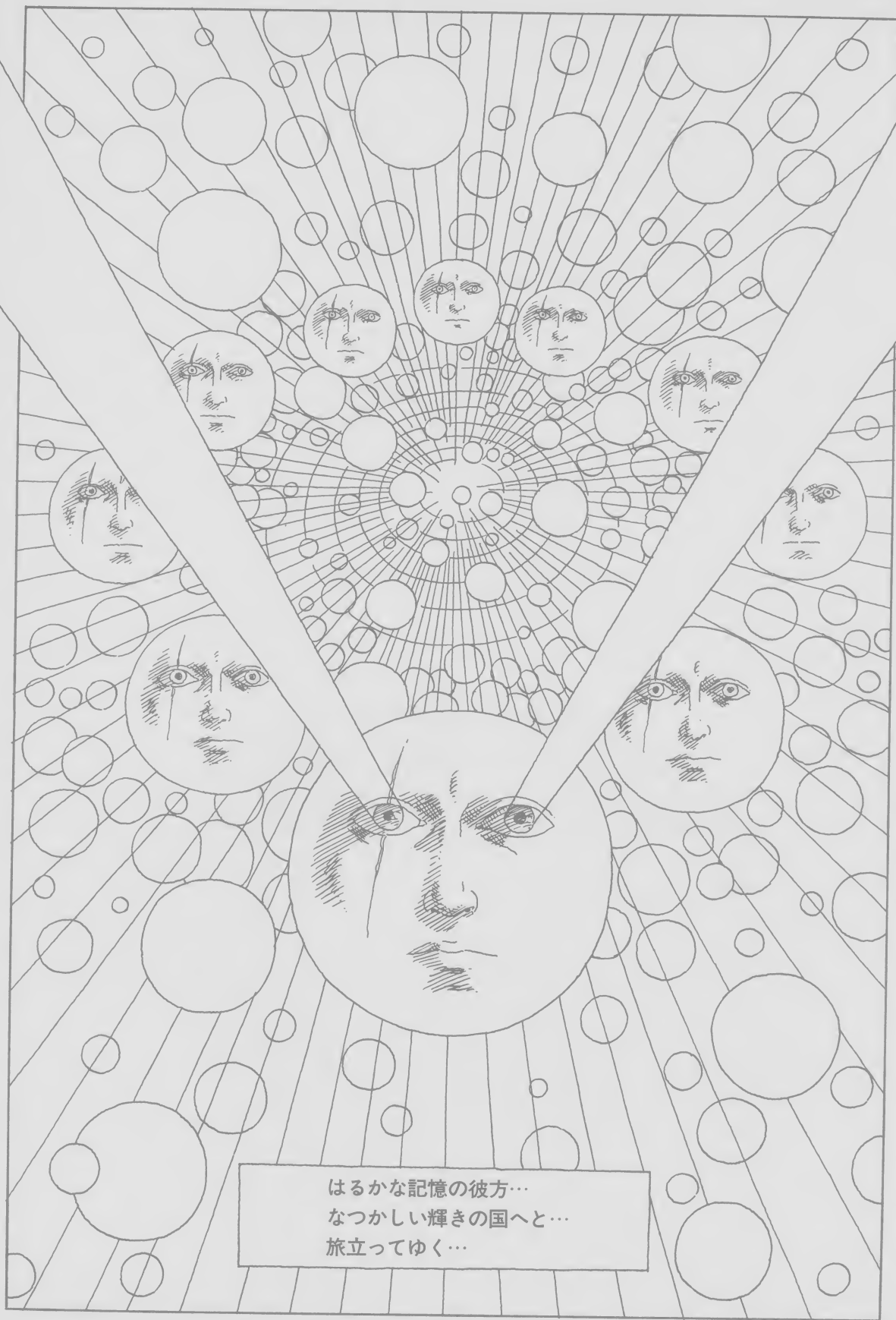
客席に犇めく
不能者(インポテンツ)の男たち
不可能な欲望に
汚濁した空気…

ガチャ
おつかれさま〜〜〜
コツ
コツ
コツ
セルマの肉体の周囲には満たされぬ男たちの欲望が
濃密な「淫気」となって渦巻いていた

私がセルマの「夢」に穴を穿つと渦巻く「淫気」は
奔流となって、その中へ流れこんでゆく

妖夢の中で
「淫気」は奇怪な植物となり
セルマを抱いた

怪植物とセルマは搦み合い
癒着し融合し…

分かち難く合体した
生命は…
激しいオルガスムに
身を震わせた
こうして花開いた
妖夢の花「アルラウネ」の
花弁から溢れ出る愛液を
私は採取することに成功した

仕事をなしとげた私は、報酬として「アルラウネ」の愛液をわけてもらい
あこがれの「霊気界」へ旅立つこととなった

私は肉体から離れ…
いまわしい「ネクロポリス」から離れ…

はるかな記憶の彼方…
なつかしい輝きの国へと…
旅立ってゆく…

ひととき、あらゆる苦しみを忘れ光に満ちた「霊気界」に遊ぶ私…
はるか遠く「ネクロポリス」を見おろして……
21629
end